
嗚呼、魅惑の、言い間違い聞き間違い

ミズキシホ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嗚呼、魅惑の、言い間違い聞き間違い

【Zマーク】

Z6100C

【作者名】

ミズキシホ

【あらすじ】
忙しい職場で田を血走らせて働いていたやんに叱られたります。

以前勤めていた会社にて。
アタクシ、しがない事務員でございました。

商品の品番とか型番。

例えば、J1234の

B H 1 2 3 4

「ビー　Hイチ　ハイフン　イチ＝カンゴン」です。

「サイフォン」ではあつません。

もつかれこれ何年も、

その人が「サイフォン」と書のを聞いているけれど、

誰も訂正できません。

もつかれ慣れたけど、

「ああ、またか」とは思ひけれど、

笑いを必死で噛み殺す、なんてことは、
もつかれど、

「バー＝バーでも飲もつかねえ。」

とこうの気分にはなります。
インスタントですけれど、

ついでに、

「サイモン と ガーファンクル」

なんかも連想しちゃいます。
なぜだろ？、なぜかしら。

事務の仕事をしています。
電話に出ることが多いです。

慣れるまでは、チョイと大変です。

掛けてくるお客様さんは、
わたしが入りたてで、
不慣れだということを知らないからです。

いろいろと大変な目にあります。

声が小さくて聞き取りにくいとか。

なまつている、とか。
なまつている、とか。
なまつている、とか。
なおかつ、

早口だ、とか。（泣 当時

わたしは、

「なまり早口聞き取り選手権」の特訓をうけていたのだろうか？
と、思い煩つたことは一度や一度ではありません。

出場は果たさなかつたけれど。

さらば、

倍率ドン！

名乗らない。

名前を聞くと、

怒る。

「いつも掛けてるだろ！…」

すみません…。

わたしは「初めまして」でしたが…。

ヒッジョウーに聞き取りにくい声の人からの電話。

相手は、

「いつも掛けてるから」「って感じで、
名乗らないつもりです。」

そこをなんとか、勇気を振り絞つて聞きます。

「アノー、シジレーテスケレードモ、お名前を伺つてもよひじこですか？」

「オ…ボリです。」

「え？」

オサボリ サンですか？

しまつた。

オサボリは、わたしだ。

〇〇は「オサボリ レティ」の略だ。

「イエ、『オカボリ』です。」

キッパリ、
ハツキリ、
かつ舌よく、
力いっぱい発言してくれました。

やればできるんじゃないの。
はじめからそういうふうしてください。

初めてのところへ電話したとき。

初めてなので、少しテンパつてました。

相手が出たら、
用件はああでいいで…。

ショミレーションしながら、
電話を掛けました。

電話のお相手：「ハイ、 産業です。」

わたし：「あ、 ××商事

だと思いますが。」

懐かしい…。

オサボリレディは、転んでもタダじゃあ起もません。

ネタになりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6100c/>

嗚呼、魅惑の、言い間違い聞き間違い

2010年12月8日12時02分発行